
氷室 真由子の悲劇 改

のるん りな

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

氷室 真由子の悲劇 改

【Nコード】

N5197Z

【作者名】

のるん りな

【あらすじ】

特別矯正教師にしてL1格闘家の氷室真由子
いま真由子に人生始まって以来最大のピンチが訪れる

本作品は「梨奈の世界」に掲載中の「氷室真由子の悲劇」の大改訂版となります
もしどうしても先が読みたい場合は、梨奈の世界 をぐぐってみてください

未改訂版がかなり先まで掲載済みです

第1話 使命（前書き）

はじめまして 梨奈 です

本作品は 非常にせまい趣向の作品です

ある女子格闘家を中心とした 戦いと 愛と 笑いに満ちた物語です

楽しんで頂けたら幸いです

題名に改とあるように 本作品は改訂版です

未改訂の原版は HP 梨奈の世界 で掲載中です

もしよければ そちらも覗いてね

できるだけ 早いスピードで投稿していくつもりです 応援よろしくね

第1話 使命

文部科学省 高等教育局 局長室

「・・・という内容なんですが お願ひできますか？」大きな机に座った初老の男が白いハンカチで汗を拭きながら、かなり心配なのだろう机の前に立っている者へ阿る^{おもね}ように尋ねる。

「はい、いいですよっ だいたい3カ月もあれば、なんとか成ると思います ああでもL1の大会には出場させてくださいね」一方机を挟んでその質問に答える声は明るく明瞭で質問者の声とはかなり対照的だ。

「ええ それはもちろん L1は国民的な行事ですからね 我が文科省代表としては是非是非頑張つて頂きたいものです」その答えに大きく安心したのか、机の前に立つ回答者にちらつと眼を向ける余裕が出来た初老の男。禿の初老の男の前で、右手を腰にあてながら話を聞いているは女性。それも意志の強そうな顔立ちのすっきりした感じのかかなりの美人。体格にも恵まれて一見モデルに見える様な女性だった。

そう彼女こそが氷室真由子、今年で33歳、身長168 体重55 スリーサイズは上から84、58、85のDカップという誰もが羨やむプロポーションを誇る女性だ。そしてその真由子の容貌は印象的な意志の強さを伝えるぱっちりとした二重瞼の目、頬がちょっと高く、形よくすつと通った高い鼻、整った紅い唇、尖った顎。ちよつと日本人離れしたきりりとした顔つきだ。

黒のタンクトップの短めのカットソーを着ているので、がっしと張り出した肩と、綺麗な鎖骨が浮き出ているのがはっきりと見える。肩まで伸びる黒髪、透き通るような白い肌の肩口に対照的な黒髪が

映える。ぐつと張り切った乳房と、カットソーの裾からちらちらと覗く腹筋、引き締まったウエストと縦長の綺麗な臍へそが印象的だ。そして張りきった形のいい臀部が、白のタイトスカートをグンと盛り上げる。膝上15センチのタイトミニからすらつと伸びる生足が眩しい。ちよつと米倉涼子に似たスーパード美人だ。ただし本人曰く「米倉涼子が氷室真由子に少し似ている」のだそうだ。たいした自信だな真由子。

こんな容姿を誇る真由子だが生業は高校の教師だ、ただし一般の教師ではなく特別矯正教師（通称”特矯教師”）だ。特矯教師とは文部科学省高等教育局局長直轄の教育環境矯正特別査問委員会に所属する国家公務員だ。教育環境矯正特別査問委員会は、正常とは言えない状態の教育環境の正常化を目的に設立された、捜査問責権限に基づく公権力を持つ実力組織だ。端的に云うと強制的に不良学生を矯正することを担務とする特別矯正教師を管理・派遣する組織だ。

特別矯正教師は、特別公務員職で検事と同様に職務遂行上における、独任制と逮捕・捜査権を有している。本職に任用されるためには、教員免許及びなんらかの精神医療科系の資格と、優良な格闘技術を有することが条件とされる。特別矯正教師とはいわゆる教師とカウンセラーと警察官の融合を目標とした縦割り行政的手法とはまったく真逆な存在と言える。一種の教育現場におけるワンマンアミー的存在といえるだろう。

真由子は、体育保健の教員免許と精神療養士の資格を持ち、JLK（日本女子キックボクシング）の現日本バンタム級チャンピオンで、昨年のL1（Ladies of No.1）World Max大会、バンタム級世界チャンピオンでもある。特別矯正教師としても一握りのSGランクに位置付けられている。なお特別矯正教

師のランク付けはS G (Super Greatness)、G (Greatness)、N (Normal)、B (Beginner) となっている。

【聖光女子学園か聞いたことあるな】禿親父の云った赴任先の学校名を思い出す真由子。

聖光女子学園は、歴史ある有名な私立女子学校、幼稚部から大学院までの超一貫教育を誇る総合教育学園だ。しかしここ数年に渡り極悪な不良グループが高等部を裏から牛耳り、過去に誇った超優良高校の面影を失いつつあった。

その状況に憂慮した卒業生の父兄関係者のとある大物政治家から文科省に対し極秘裏に環境矯正の依頼があり、事務次官の目の前でこの禿親父が簡単に安請け負いをしてらしい。まずは有名な教師やら専門家が学園に派遣され、その悉くが失敗におわった。そして満を持して派遣された特矯教師もまた不良グループの前に敗北を喫している。これは極めて異例の事態だった。

政治家と事務次官からの圧力が相当厳しいのだろう。2度の失敗に禿親父はかなり厳しい立場に立たされていた。もう3度目の失敗は許されない、次の失敗は禿親父の進退問題へと発展するだろう。それが禿親父にS Gランクの特矯教師の中でも掌中の玉とも云える真由子を選任させた所以だ。

「いや よかった 引き受けて貰えますか いやほんとに助かりました」今真由子の前でしきりに汗を拭きながら、そんな独り言を呟いている禿親父こそ、文科省次期事務次官候補のレースで先頭に立っている文科省高等教育局長だ。まあ完全な自業自得ではあるが、禿親父の未来は今や真由子の矯正の成否にかかっていた。

真由子にして見るとそんな事情は全く関係ないが、矯正現場が有名な私立名門女子高校であることが興味を引いており、この要請ははなっから引き受けるつもりだった。なおGランク以上の特矯教師

は任務への拒否権を有しており、それは局長命令いや事務次官、大臣からの命令であっても拒否可能であり、過去に何ども拒否権を発動した実績のある真由子に、今回も命令拒否されることこそが禿親父が最も恐れていた事態だったのだ。禿親父と話しながらも真由子は事前に渡されていた調査報告の内容を思い出していた。

聖光女子学園高等部 内部調査報告 H112A0004.2
現時点で存在が確認された学園内の有力不良グループは3チーム。
構成員数は約30名。

なお構成員の大半は、体育系のクラブを隠れ蓑にして活動中。

またこの3チームの上位組織の存在を確認。

上位組織名は、”鬼^{きくひめ}狂姫” 構成員は2名。

佐伯沙羅 16歳 2年 生徒会会長 身長155 体重75

流山柚月 16歳 2年 生徒会副会長 身長162 体重47

上記2名以外にも”鬼^{きくひめ}狂姫” 直属のメンバが存在する模様。詳細は調査中。

【生徒会の会長と副会長が 裏のボスねえ 相当しっかり組織化されてるんだろっなあ ”鬼^{きくひめ}狂姫” ねえ ちよつと矯正しがいがあるそうね】

「現場への赴任はいつになりますか？」そう云いながらニコつと笑う真由子、口許がほころびそこから綺麗な白い歯が覗く

第1話 使命（後書き）

いかがでした 第1話 使命

基本 状況説明でしたね

2話以降 やつと物語は進んでいきます
お楽しみね〜

字下げやらの修正しました 字下げは初めて実施しました
この方がやっぱ読みやすいのかなかな

第2話 赴任（前書き）

連続 投稿です

やっと 真由子らしさが すこしづつ現れてきました
みなさんが 真由子を好きになってくれると嬉しいですね

第2話 赴任

聖光女子学園高等部 大講堂

ステージ上の演壇に立つ銀髪の親父が口を開いた。

「本日から我が聖光女子学園高等部に赴任された氷室真由子先生です 氷室先生は皆さんもご存知の通りL1の世界チャンピオンです 本校においても幾つかのクラブの顧問を担当して頂きます 皆さん こんな貴重なチャンスは滅多にありません 氷室先生の世界レベルの指導を有意義に活用してください」この説明に講堂内がざわつき始める。

紹介が終わると同時に真由子が講堂の緞帳の陰からステージの中央に颯爽と歩みでる。ステージ中央で立ち止まると左右に視線を走らせると、両手を身体の前に揃えてゆっくりと深々とお辞儀をする。肩まである黒髪がサラサラと流れ落ちる。

「やっぱり女子高だ ぴちぴちの女子高生ばっかしね それにさすが聖光女子よね結構可愛い娘が多いじゃないの これはちよつと楽しみかもしれないな」その深々と頭を下げた姿勢のままでとんでもない感想を思い浮かべる真由子。

「みなさん おはようございます 今紹介された氷室です 皆さんと共に楽しい学園生活を過ごしたいと思っています よろしく願いますね」そんな形通りの挨拶をする今日の真由子の格好は、肩が大きく露出された白いブラウスと膝上25センチの黒のタイトスカート、それにちよつと挑発的な真っ赤な12センチのピンヒールのパンプスだ。短い挨拶を終えるとすつとお辞儀をする。頭を上げると正面を見ながら右手の中指ですーつと垂れた髪をかきあげなが

らニコっと笑顔を浮かべる、これは真由子の有名なお決まりのポーズ。もともと168の真由子が12センチのヒールを履くとその長身がぐっと強調されて、有名なお決まりのポーズと相まって圧倒的なカリスマが全身から発信される

圧倒的プロポーションと決めポーズ、そして飛びぬけた明るい笑顔に思わず講堂中がどっと沸き上がる。少女特有の黄色い歓声が幾つか聞こえる。

「すっごーい 本物の氷室真由子よ わたしファンなおお」

「あの脚ちよおお綺麗」

「テレビで見るよりずっと素敵だねえ」

「背が高いいい それにすっごくスタイルいいよねえ」

「あんな綺麗なのに L1の世界チャンプなのよ あとでサイン貰おうっと」

「無敵無敗のスパーチャンプだっけ？」

「そうそうそれに 絶対女王 美貌の狂戦士でっしょ」

「闘う公務員 氷室真由子っよね かつこいいいいい」

そんな講堂内の大部分を占める歓声やどよめきとは別に、幾つかの敵意剥き出しの視線がじっと真由子を睨む。

「ちっ あれが次の特矯センコーか、いけすかないね」

「けっ L1チャンプが なんぼのmondai 前回同様に捻ってやるさ」

「香奈枝すぐに雨瀬さまに連絡をとりなさい 今回赴任してきた特矯教師は氷室真由子 ランクはSGランク どうやら一筋縄では行きそうもないとね」まさにその言葉はこれからの未来を適確に暗示した言葉だった。

教室のドアの上には「2-A」の表札がかかっている。

「わかりましたか？ 性病の感染経路のほとんどは男性との性交渉に原因があります。したがって不特定多数との性交渉や無防備な性交渉は絶対に避けるようにしてください」テキストを左手に持ちながら生徒達の間を、カツカツとヒールの音を響かせながら歩いていった真由子がふつと立ち止まり、テキストから目をあげる。

「性病や望まない妊娠など あなたがたのような若い女性にとって男性とのSEXは危険性があまりに高いわね 私的意見としては、男性とのSEXそのものを避けることをお勧めしたいわね」さらりと言いのける真由子。おい真由子文科省監修のテキストにもそこまでは書いてないぞ。

クラスの中の幾つかの視線が真由子に向けられる。

「いいですか その点から考察するなら 女性間でのSEXは非常に危険性が低いです 男性同士でのSEXで危険性の高いエイズ感染の危険性も女性間でのSEXでは非常に低い訳です」完全に脱線する真由子。ざわざわとし始める教室。

「これも私的な意見ですが まあ男性っていう生き物はわたしに云わせるならあまり優等性も感じないし、必要性も感じないですね」ますます脱線が激しくなる真由子。

「先生、男性の優等性ってのは肉体的・体力的には認めない訳にはいけないんじゃないですか？」一人の生徒が思わず立ち上がって反論する。まあ妥当な反論だな。

「そうかな？ そんなことわたしは認めないわよ わたしは一度も誰にも負けたことはないし これからも誰にも負けるつもりはないわ それは相手が男性だとしてもね」その反論した生徒に向かってニコッと笑いながらウィンクする真由子。真っ赤になって椅子に座ってうつむく反論した生徒。

黒板の前に戻るとさつと生徒側に振り返える真由子。

「さてみなさんは知っていますか？ 性の原型はメスであることを性の原型から進化した存在がメスで、性の原型から特殊化したのがオスなのです、最近の群体性ボルボックス目での研究結果によるとオスの性染色体領域には“OTOKOG I”等のオス特異的遺伝子が10個発見されており、細胞分裂して小さな精子を形成するというオスらしさを特殊化させた原因の遺伝子群のひとつであると推測されています。まあいいかえればオスは精子を作る為だけに特殊化した存在ではないかと・・・」保健体育の授業が特殊な生物の授業に変化しだしている。しかもちよつと捻じ曲がってないか真由子。

【へんな女ね あれが氷室真由子か・・・】持ち前の持論をとうとうと語る真由子を教室の後方からじつと伺う視線。

聖光女子学園高等部 体育教室

誰もいない静かな教室の椅子に一人座る真由子。黒のタイトスカートからすらつと伸びる脚を斜めに組み、デスクの上でほおづえを突きながら何枚かの写真と報告書をじっくりと眺める真由子。なかなか絵になる格好、だが問題はその報告書の内容だった。

“佐伯沙羅 16歳 2年 生徒会会長 身長155 体重75”
写真の白枠に印刷された文字。

A4版の大きな全身写真には、まるでピア樽のような縦よりも横が大きいようなチビデブの姿が写っている。顔が身体に比べるとかなり大きく下顎が発達して四角い。そしていかにもといった顔の表情、その顔の中心に寄った吊り気味の目がなんとも小さくて印象的だ。その小さな目にはかなりの凶暴さを感じる。頬骨が大きく高い。鼻はなにかの事故で潰れたのか、ちよつと左に曲がって低い。かなり口がでかい。さぞ大きな声が出るのだらう。薄い唇。ごつい顎。短

く刈り上げた深い茶の短髪、一言で云うなら、凶暴な野生の豚だ。

【さぞかし子供の頃から固い物を食べていたのね 顎がほんとに立派に成長してるわぁ うーん 公式には格闘技の経験なしか・・・でも中学から喧嘩では全戦全勝という伝説があるのよねえ・・・んっ！ 兄貴が駒風部屋の十両なのね

ふーん これね 相撲ってのはちよつと厄介ねえ で こっちはどうなの・・・】じつと見ていた写真をぼいと無造作に投げる真由子。

“ 流山柚月 16歳 2年 生徒会副会長 身長162 体重47 ”

もう一枚のA4版の全身写真をデスク上から2本指で摘み上げる真由子。体格的にはいたって普通な感じ、顔全体は沙羅とは反対に細長い瓜顔だ。髪は胸元までの黒の長髪、前髪は切り揃えられており、その前髪の下に見える額がやけに広いのが特徴的。眉が薄く細長い眼、鼻筋は長くその下には薄い唇が続く、そして尖った顎。沙羅が野生の豚なら間違いなく性悪な狐を連想させる。

薄い眉の下の一重瞼の奥の瞳に何かを感じる真由子。

【ふーん こちらも格闘技の経歴はなしね 喧嘩の記録もなしかな？ へえーっ IQ127！ こりや凄い つまり沙羅が武闘派で 柚月が知能派ってわけね でも こんな普通そうな子が IQ127かぁ】写真を再びぼいとデスクに投げ捨てると、今度は字がびしりと詰まった報告書を手に取り取る真由子。

聖光女子学園高等部 内部調査報告 H112A0008・1

暴力的不正支配組織：“鬼狂姫”^{きくひめ}、

調査の結果鬼狂姫は12年程前から存在している事が確認されている。当初は組織名ではなく、特定の個人を指す名称だったと思われる。

その後少数人の指導者グループを現す組織名称に変異していったものと思われる。

数年置きにメンバ交代が行われており、現組織は、5代鬼狂姫きくめと呼称されている。現組織から過去2世代の4代鬼狂姫と3代鬼狂姫の構成メンバは確認済みである。

しかしながら初代鬼狂姫および2代鬼狂姫の正体は未確認である。なお初代及び2代は個人としての活動であった可能性が高い。

各世代間における連絡・連携の具体的痕跡は確認できていないが、当然ながら連絡・連携が存在するであろうことは十分に推察される。したがって単なる不良少女の暴力組織と認識せずに成人による非法組織暴力集団レベルと認識する必要があると結論づける。

10枚以上ある報告書を斜め読みしながら、次々に1枚1枚ぱいぱいとデスクに投げ捨てていく真由子。

更に数枚の写真に目を通しながら、写真の名前を頭の中で読みあげる。

葉山早苗、七瀬千夏、加賀美月みづき。最後の名前にひっかる真由子【美月 ん？ この娘わたしの受け持ちのクラスの娘かな】ちらつとさきほどの授業の記憶を呼び起こす真由子。

報告書を全てデスクの上に投げ捨てると、両手を組んで人より少し長くてかなり太い両腕をぐぐつと頭の上で伸ばす。

【ふゝん 伝統ある不良組織ってことお でも現段階において外部勢力の介入の痕跡なし

かあ まあどちらにせよ 沙羅と柚月をなんとかすれば 大概のことは方が付くわね】腕を戻すと今まで目を通してデスクの上に散乱した報告書やら写真やらを、適当にばさばさとまとめると大きな茶封筒にばさつと入れる。その茶封筒をデスクの一番下の大きな引き出しにぽいと投げ入れると鍵を懸ける。どうもその様子から性格的にはあまり几帳面な様ではなくかなり大雑把な感じな真由子。

組んでいた脚を崩し椅子からすつと立ち上がると、つかつかとハイヒールを鳴らしながら教官室の右手奥に向う真由子。右奥にある

4つ程並ぶ体育教官室備え付けの「CHANGING ROOM」の札の掛るスチールドアのひとつを開き、室内に入る真由子。ドアの横にある白いSWを入れると天井のライトがすかさずぱつと点灯する。

「さすが 歴史ある聖光女子ね 教官毎に更衣室があるとはねえ
しかも完全防音じゃないの すこいわね」

4畳半くらいの大きさのある個室、壁には大きな姿見が備え付けられ、その脇にハンガーラック、部屋の中央には長さ2メートル程のちよつと幅広の木製ベンチ。そして逆の壁にはグレーのスチールロッカーが立っていた。覗き防止のためか窓は一切ないがライトのSWと連動しているのか大きな換気扇がぶんぶんと唸りを上げ始めていた。女性らしく何げにくんくんと匂う真由子。

【ん 換気扇が強力なのかな 合格ね】

ロッカーを開けると、前任者のものだろうか、ダンベルやらハンドグリップやらジャンプロープ（とび縄）やらゴムバンド（たぶんベンチで腹筋運動を行う時の、脚の固定用だろう）等の雑多なものが入っていた。どうやらこの部屋は、更衣室兼トレーニングルームのようだ。

【この中は ちょっと匂うわね】少し眉を顰める真由子。

ざつとひととおり部屋を見回すと、次にスチールドアのノブを握って押したり引いたりして鍵の丈夫さを確認し、部屋中の壁を叩いたりロッカー内を物色したり、室内をくまなく調べ盗聴器の類が、存在しないことを確認する。意外な慎重さを垣間みせる真由子。

「ふゝん 鍵さえ交換すれば 充分に安心して使えそうね これはありがたいわ」ニヤリと笑みを浮かべながら一人呟く真由子。

部屋の安全確認を終えると姿見の前で腰に手を当てて仁王立ちす

る、一瞬自分の全身を確認すると、さつと無造作に白いブラウスを頭から抜き黒のタイトスカートのホックをはずすとぱつと脚をスカートから抜き去る、更に素早く脚を振ってポーンとパンプスを脱ぎ棄てる。コロコロと転がるパンプスには気も止めない様子。

あとに残るのは真つ赤の上下お揃いのブラとショーツ。色は赤と派手目だが、デザインはフリルもなくいたってシンプルな感じだ。真由子は、ブラとショーツ以外の下着を一切着けない主義。30歳を超える女性としては珍しい生足派だ。

なんの躊躇もなく手早くその真つ赤なブラとショーツも脱ぎ去る。完全な裸体。その整った肢体を鏡に映す真由子。

ほんのりと焼けた染みひとつない、なめし革のようにすべすべした肌。バランスの取れたすらつとした四肢。長年に渡り鍛え上げられた身体、贅肉の類は一切見受けられないが、表面的にはそんなに筋肉質には見えない。真由子の肉体は、機械的な器具による訓練ではなく、組手や水泳、崖登りなど人や自然等を相手に鍛えている。そのため筋肉の量はそれほど多くはないが、筋肉の質の次元が常人とは全く異なっている。

体格的に目立つところと言えば、広い肩幅と割れた腹筋と常人よりはるかに太い太腿くらい。そして最大のチャームポイントは、誇らしげに盛り上がる美しいバストだ。その豊かなバストは他の部分に比べ日焼けしていないのでその白さが一層際立っている。その白くて豊かなバストの頂点でつんと上を向くピンクの乳首がとても可愛らしい。バストの下に連なる引き締まったお腹とウエスト、縦長の綺麗な臍の下に生える股間の恥毛は非常に薄い。陰部は下付きなのだろう、正面からではその細部を伺うことはできない。

ちよつと腰を捻るとふくよかで大きな白い尻が鏡に映り込む。一見柔らかそうで女性的な尻だが、ぐつと力を入れると太い筋肉の筋が浮き出す。【少し胸が大きい過ぎよね。ちよい動きが鈍るのよね】

自分の身体を一瞬で確認すると手元の大きなスポーツバッグから、薄いグレーのスポーツブラ（前面は鳩尾の辺りまでを覆い、背中は肩ひもがクロス（X）し背中がほとんど露出している）を頭から被って身につける。次にブラとお揃いのハイレグでＴバックのグレーのショーツを取り出し脚を差すとささと履きあげる。その上にアディダスの青のＴシャツと、これも青の膝丈のレギンスを身に着ける。

上下の衣服を身につけた時点で一度全身を鏡に映す。Ｔシャツはかなり小さめで、ピタッと肌に張り付いている。だが胸の盛り上がりはスポーツブラで締められて、あまり目立たない。青のＴシャツはかなり丈が短いのでレギンスの上、１５センチくらいが露出し遅しい腹筋と可愛い臍が覗く。レギンスもちよつと小さめなのでぴつたりと肌に張り付く。レギンスの下に穿いたＴバックのショーツも手伝いヒップのラインが綺麗にでている。ただし下腹部にはくつきりとハイレグのＶラインが浮かび出る。

【うん やっぱりこの締め付け感がいいわねえ 本当はブルマを履きたいんだけど、それはさすがにちよつとね】変な感想を思い浮かべる真由子。

最後にアディダスの白のスポーツシューズを履くと靴紐をぎゅーっと締め上げる。たんたんと靴先を床に当てると履き具合を確認める。

【よしっ いい感じね】鏡の前でくいつと顎を上げて全身を確認すると、ばんつと勢いよくドアを開け放ち更衣室を勢い良く飛び出す真由子。さあいよいよ戦闘開始だ。

第2話 赴任（後書き）

これで準備完了 次回はいよいよ真由子の実戦がはじまります

第3話 戦闘（前書き）

ついに真由子の初の戦闘シーンです
まああいてが雑魚ですが 圧倒的な真由子の戦闘力の一端でも感じ
て頂ければ幸いです

第3話 戦闘

聖光女子学園高等部 格闘技室

“格闘技室”のネームプレートの下で開け放たれた扉を通って室内に一步踏み込んだ途端に、その広さと立派さに驚きを隠せない真由子。

【これが格闘技専用の体育館？　なんて贅沢！】

手入れの行き届いた黒光りする木製のフロア、そして公式バスケットコートが2面とれる程の広さ。壁一面を埋める大きな鏡、普通の学校の体育館よりもよほど立派で広い。

「しゅうごう」室内に入る真由子の姿を認めると、ジャージ姿の男性教諭の太い声が広い格闘技室に響く。

格闘技室のあちこちに散らばっていた8〜9名のTシャツの上から空手着を着込んだ女生徒達が、ぱたぱたと男性教諭の前に集まってくる。

「本日は　ありがたい事に当空手部が以前紹介のあった　氷室先生のご指導を受けることになった　みんなしっかり勉強させてもらえよ！」

「はい」ほぼ全員が一齐に素直で明るい返事を返す。

【あら　かまとぶってるのね】その声を聞きながら先の調査報告書を思い出す真由子。

聖光女子学園高等部　内部調査報告　H112A0013・4

チーム“PaC(Panthera Cat)”。本呼称は、“虎猫”から由来したと想定される。

聖光女子学園高等部内での最大最強の武闘派チーム。構成メンバは14名。

P a C 構成メンバの中核メンバを成す10名は聖光女子高等学校の空手部に所属。

P a C リーダは、空手部主将の加賀美^{みつぎ}月。なお空手部部員はその全員がP a C のメンバでもある。つまりP a C 〓 空手部と認定することが妥当と推察できる。

なお空手部に属さない他のP a C メンバは、準構成員レベルと見られ、そのメンバでは何事も成し得ないものと推察できる。

今回の聖光女子学園矯正計画での最優先矯正目標は最大の実力部隊の空手部と考えられる。

【虎をP a n t h e r a って云うところが いかしてるわぁ】報告書を思い出しながら、かなりへんな処に感心する真由子。

「先生 あとわたしがいりますので ありがとうございます」男性教諭に向かって軽くお辞儀をする真由子。

「それでは あとはおねがいします いいか みんな云う事きくだぞ」ちらつと不安気な様子を垣間見せる男性教諭。

「はい」再び素直で明るい返事が一斉にあがる。

その声を聞きながら関わり合いになる事を避けるように、そそくさと格闘技室を立ち去る男性教諭。がらがらと格闘技室の扉が重い音をあげながら閉まる。一瞬にしてシーンと静まり返る格闘技室。

「さて、どうする？」男性教諭が間違いなく格闘技室を立ち去ったことを確認した真由子が、女生徒達を振り返るとニコリと微笑みかける。

「せんせえー L1の試合ってほんとにガチンコなんですかあ？ あんなの八百長のショーだって噂も聞くんですけどぉ」真由子の正面に立つひとりの女生徒が嘲りの表情を浮かべながら可愛い声で尋ねる。身長がかなり高くちょっと眉毛が薄い感じのニキビ顔の女

生徒。

ちなみにL1「Ladies of No.1」とは、立ち技で行われる女性格闘技団体の呼称で、さまざま時期、地方で盛んに試合が行われておりTV放映でも非常に人気が高い。更に年1回開催されるL1 World Maxでの国内予選大会や世界王者決定戦は、いまやオリンピック等と並び立つような人気を持つほどの盛況さを誇っている。真由子は日本人唯一のL1バンタム級の現世界王者だ。

【ふうん あなたが特攻隊長さんなのかな？ 声はいいんだけどね ちよつと表情に可愛げが足りないなあ 残念ながら不合格ね】一方的な評価を即座に下す真由子。いったいなにに不合格なんだ真由子？

残りの部員全員が、そのニキビ娘の声を聞いて薄笑いを浮かべると、がやがやと何事かを隣の者と喋りだす。人数の多さが余裕を生んでいるのだろう、全部で10名それぞれになかないいい体格をしているし、それなりの実戦経験も自信もあるのだろう。10対1の現状認識からか真由子に対する恐れなど微塵も感じさせない様子を見せつける。

中央の最後尾で更に余裕の笑顔を見せている娘が特にでかい。身長は真由子を大きく超えている、たぶん175近いだろう。

肩幅や腰回りから見て、体重も80は軽く超えていそうな恵まれた体格。間違いなくヘビー級だ。

バンタムの真由子からすると、5階級も上の階級と云うところだ。

ちなみにL1は、フライ、バンタム、フェザー、ライト、ミドル、ウェルター、ヘビーの7階級制を採用している。

【あれが加賀美月ね、2年A組 土魂道空手3段 去年の全国土魂道空手大会の準優勝者ね さっきの授業ではどっかに隠れたてのかな あまり記憶にないぞ うんうん写真以上に本人はかなり可愛い

わね 美月あなた合格よ】再び即座に評価を決定すると思わず自然に笑顔となる真由子。その真由子の笑顔を見て一瞬不審な表情となる美月。

ガヤガヤと喋りながらなにやら笑い声をあげる部員に向かって“パンパン”と手を叩く真由子。思わず部員達の視線が真由子に集中する。

「はいはい 静かに静かに」腰に手をあてて10名の部員を睨みつける真由子。

「ねえねえ マジにどうなんですか せんせいさんよお」さきほどのニキビ娘が同じ質問を繰り返すが、その表情から既に笑顔は消え去っている。

「そうねえ 時々そういうお間抜けさんがいるのよね そしてね そんなことを云うお間抜けさんには、いつも同じ応えをする事にしてるんだな」そう応えながら、腰にあてた手をすつと離すと静かに構えを取る真由子。

左脚を20センチ程前に出し右脚は心持ち後ろに引く、重心を7:3で後ろの右脚に乗せると軽い中腰となる。左手を胸の前、右手はその左手の下、臍の前あたりで構える。両拳の握りはあくまでも軽い握り。両腕がタイミングを図るようにゆっくりと動く。

真由子はJLK（日本女子キックボクシング）のバンタム級の日本チャンピオンだが、それ以外にも柔道、空手、合気道の有段者であり、レスリングの元日本代表でもある。（L1に出場したため、アマチュア規定に引く掛かり日本代表を辞退している）この構えは各武道のいい処から考案した、真由子のオリジナルで最も基本の構えだ。

「L1がショーなのかどうかは 自分で試してみることね さあみんなまとめてかかっていらつしやいな」そう云い放ちながら、ゆっくりと首を2〜3回回す。そして右拳をゆっくりと胸の前にあたり突き出すと、その右手の拳をぱつと開き手首を垂直に立てる。その

開いた手の平を相手に見せつけると、くると半回転させ水平上向きになった指先を相手に向ける。そしてその水平になった指を小指から順番にゆつくりと折り曲げていく。真由子は無言のままだが、その折り曲げられていく指が“カモン カモン”と部員達を挑発する。

「てめえ なめてんのかぁ おれら全員をいつしよにあいてするだあ？」真由子の安い挑発に簡単に乗って、一瞬で化けの皮が剥げ落ちたニキビ娘が顔を朱に染めて怒鳴り声を上げる。その怒鳴り声を合図にしたかのように、真由子から見て右端の2人が目配せを交わし同時に突進してくる。

その姿を確認すると真由子の左膝が折曲がったまま上にすつと持ち上がる。そのまま左膝が胸の付近にまで引き上がる。右脚一本で静かに微動だにしない真由子。

上半身が全く動かないまま、左膝から伸びる下肢が目にも止まらない速さで鞭のようにになる。

“ぱしっー ぱしっー” 突進するふたりの左頸部、顎下に続けざまに足の甲がヒット。目にも止まらぬような閃光の連続ハイキックだ。キックを受けた二人は声もあげずに、膝から力なくどさっと崩れ落ちる。一瞬で二人を葬ったキックを放った下肢は、まるでなに事も無かったように再び膝の下に素早く収まっている。

その真由子の背中に向けて左端の一人が声をあげる事もなくつつと近づくと、自信に満ちた表情を浮かべながら右回し蹴りを放つ。だがその瞬間、真由子の身体が一本脚のまま垂直に跳び上がる、当然右回し蹴りは空を切る、一方の真由子は空中で鋭く身体を捻りながら畳んでいた左脚で後ろ回し蹴りを放つ。その真由子の後ろ回し蹴りが的確に、右回し蹴りを放った部員の首筋にヒットする。

「あぐつうう」悲鳴を上げながら簡単に左側へと吹き飛ぶ部員。

半回転ほど空中で回転すると、なんと事も無げに右脚から着地する真由子。再び後ろ回しを放った下肢は何事もなかったように膝の下に収められる。

右脚一本で立っているのに、身体全体を微動だにさせず放たれた左脚の連続蹴り。正にハイキックのお手本だ。そして後ろからの不意打への飛び後ろ回し蹴り、まるで背中にも目があるようだった。着地した時の右脚片足立ち姿勢のままですつと左に身体を回し、残り7名と正対に構える真由子。一瞬で3名が倒された状況にはつと息を飲み込む部員達。先ほどまでの余裕の表情は完全に消え去っている。

「ちつ 甘かぁねえぞ 囲め！」中腰で両拳をボクシングスタイルで構えるニキビ娘がカン高い声を張り上げる。

その声に応えて、ばつばつと5名が真由子の左右背後に回りこむ。その動きを見ながらも真由子はまったく姿勢を変えない、片脚立ちで左脚の膝をおり、胸のあたりまで左膝を上げたままの姿勢。「そうね そのほうが賢明ね」そう呟く様に言葉を漏らす真由子。だがその目は、正面に残った美月とニキビ娘のふたりを見据えたまままだ。

「つつ！」背後のひとりが無言のまま真由子に跳びかかってくる。その動きにあわせて真由子の左右から、同時にそれぞれ回し蹴りが放たれる。左右からの回し蹴りには一瞥もしないまま即座に真由子の上半身が前に沈み込み、左右から放たれた回し蹴りに空を切らすと同時に、真由子の左脚が背後に一直線に伸び、足の甲の外側が背後の相手の臍下にめり込む。一瞬真由子の姿勢は右脚だけのT字型となる。

一瞬で後ろに伸びた左脚を戻すと、両膝を曲げながらそのまま接地。今度は両膝を深く折り曲げた蹲踞の姿勢となる真由子。すかさず蹲踞の姿勢から勢いよく立ち上がりながら両腕を翼のように広げ

る真由子。

真由子へと放った回し蹴りが空を切り、態勢が崩れてがら空きとなつてゐる部員の鳩尾にすかさず左右の拳を突き入れる真由子。

「あぐう　ぐううう　ううううう」　「うおっ　うぎい　うあああ

あ」鳩尾への正拳突きを受けた部員が、それぞれ唸り声を上げながら腹を抱えて身体を激しく震わせている。大きく開いた口からはだらだらと涎が滴り落ち、磨き上げられた床を汚していく。

「むぐっ」一方臍下に足刀を食らった部員は、一声放つと仰向けに倒れると微動だにしなくなる。

全てが一瞬の出来事だ。残った4人は雷に撃たれたように身体を固くする。

「いいこと？　こんな風に連携しての攻撃つてのはなかなか難しいのよ　だって練習はたいてい1対1じゃない？　だからきちんと連携攻撃の練習をしておかないからこんな事になるのよ　ほんとに練習つてのは大事なのよ　わかってる？」　「ちょっと不思議な講釈をいいた放った真由子は、いつの間にか最初の構えに戻り正面を見据えている。息ひとつ切れていないし、汗も一筋も流れていない。そして右手の中指ですーっと垂れた髪をかきあげる。

第3話 戦闘（後書き）

いかがでした 真由子の戦い たった2回の攻防で6名を始末しました

残りは4名ですが 問題は主将でかつP a Cリーダーの美月です
ね さて美月ちゃんの実力はいかばかりか 次回をお楽しみね

第4話 矯正（前書き）

ついに 美月との タイメン勝負が始まります
士魂道空手 全国大会準優勝の 実力派の美月 しかも その体格
は大きく真由子をうわまります

この勝負 どうなるでしょうか？

そしてP a Cへの矯正は成功するのでしょうか

第4話 矯正

「おい お前ら手えだすな これからはタイマン勝負だあ」真由子の正面、ニキビ娘の後ろに立っていた加賀美月が、苛立ち気味な声をあげながら一歩前に歩み出る。頭半分は真由子よりも上背がある美月、しかも身体全体で見ると2回りは大きい感じがする。一言でいえば圧倒的な体格差といったところだ。

「いいわよ 特別に個人レッスンしてあげるわ ほんととはとても高いのよわたしの個人レッスンは でも可愛いわたしの生徒だから特別にサービスしてあげるわ」そんな体格差などはまったく無視して、怖い顔で睨む美月に対しニコリと微笑みかける真由子。

だがそんな真由子の挑発を無視して無言のまま構えを取る美月。

【あらっ 乗ってこないの？ 思ったよりずっと落ち着いてるってことかな】

美月は両脚を並行のまま肩幅に開き膝をわずかに曲げる。左拳は臍の前、そして右拳は腰の前。真由子の構えより拳の位置は低い。わりとどっしりとした土魂道空手独特な“鎮魂”ちんこんの構え。基本後の先を旨とする守備的な構えであるが、蹴り攻撃中心の美月が最も得意とする構えだ。

それぞれの構えを取りながら正対するふたり。じりじりとどちらからともなく距離が縮まる。

“ぶわっ” 重く、鋭い美月の下回し蹴りが空間を切り裂き、真由子の前に出ている左太腿を狙う。美月の必殺のローキック。だがさつと脚を上げると難なくローキックかわす真由子。

【へっええ いいロー持つてるじゃないの 確か中段の右回し蹴りが得意技だったわね】そのローキックみてますます楽しくなってくる真由子。

再び正対し、じりじりと距離を縮めるふたり。その二人の対峙を見つめている周りの緊張感がどんどん高まっていく。

ふっと明らかに不用意に美月に近づく真由子。

「りゃあっ」そんな動きを見逃すはずのない美月の裂帛れいひくの気合。

“ばっしっ” 美月の凄まじい中段右回し蹴りが飛ぶ。過去に何度も相手の肋骨を叩き折った、自慢の右回し蹴り！

その美月の右の向う脛が、真由子の肘からV字に折り曲げた左前腕に突き刺さっている。

その真由子の左前腕には、普段は見られない腕橈骨筋の筋がくつきりと浮き上がっている。

一瞬の静寂。

「あ あぐぐうう」 静寂を破って声をあげたのはキックを放った美月だ。そして脛を抱えてその場に蹲うつすくまる美月。真由子の前腕のブロツクが美月の蹴りに勝った瞬間だった。

「うつりゃあ」「いやあ」「がああ」ふたりの勝負を見ていた残りの3人が、一斉に右から前蹴り、背後から右パンチ、正面から飛び蹴りで、それぞれに真由子に襲いかかる。

その動きを確認すると、真由子はすかさずと腰を落とすと右脚を引きながら、身体をちよつと後ろにそらす。まずは右側からの前蹴りをそらした身体の前方に流す。そして前蹴りが空を切りそのまま右側から接近してくる部員の鳩尾に右肘を叩きこむ。

右肘打ちが決まると同時に、真由美の後頭部へ背後からパンチを放った部員の顔面に、今肘打ちを放った前腕を振り上げて右拳の裏拳を撃ちつける。

裏拳を放った勢いをそのまま利用して右後方へ身体を捻り、半身の姿勢となり前方からの飛び蹴りをかわす。そして目の前を通り過

ぎていくニキビ娘の脇腹に、中腰の姿勢から左掌底を打ち込む。

【The End】ニキビ娘の脇腹から伝わってくる左掌底の手応えを感じながら、そう心の中で宣告する真由子。

流れるような体捌きと攻撃。まさに攻守一体まったく無駄のない動きで、たった数秒の間に最後に残った3人の戦闘力を奪った真由子。

「があ ぎい あううう」肘打ちを受けて腹を抱えて蹲り悲鳴をあげる右側の部員。

「ばぶううう」裏拳を顔面に受けて膝立ちのまま、必死で顔面を両手で覆う背後から襲いかかった部員。かなり激しい鼻血の出血が両手の指の間から見える。

「いつ うううう」掌底を受けた脇腹を押え尻もち状態で、苦痛で脚をばたばたさせるニキビ娘。

「さすがね タイマン中に殴りかかってくるとは 不良の鏡ね」倒れた3人がそれぞれにのた打ち回っている様子みながら、かなり楽しげな真由子。

尻餅をついたニキビ娘の顔にずっと自分の顔を寄せるとニコッと笑うとちよつと意地悪な質問を投げかける真由子。

「どうかな？ これでＬ１がショーじゃないってわかってくれた？」恐怖に引きつった顔をうんうんと激しく上下させるニキビ娘。

その応えに満足したのか構えを解いてすつと直立し両手を腰にあてると、それぞれに呻いたりや唸り声をあげながら床の上で苦しんだり、静かに気絶している他の9名を見渡しながら、さっぱりした声をあげる真由子。

「はい はい じゃあ これから練習はじめるわよ ほらっ さつさと 起きた 起きた」

その後の練習、これがまた凄まじかった。

「そ〜ね　まずはダッシュね　ちよつとこの中だと距離が短いから・
・　そうねまずはダッシュ200本いつてみよ〜か〜」こともな
げに簡単にそういい放つ真由子。

格闘技室は40メートル四方の広さがあるので、つまり40メー
トルダッシュが200本ということだ。

「っ!？」言葉も出ない部員達。美月だけがきつと真由子を睨むと
一気に壁に向かって駆け出した。

【あらあ　可愛いわああ　これはもつともつと可愛がつてあげない
とね】その美月の目付きをみて事の他上機嫌になる真由子。

ダッシュが終わると、続いて正拳突き1000回、手刀1000回、
前蹴り1000回、中段回し蹴り1000回、ハイキック600回
というメニューが続いた。

「うげっ　ぐはっああああ　ごぼっ　ごぼっ　うえええええ」前
蹴り中にニキビ娘が床の上に胃液を撒き散らしながら倒れた。

この時点で立っているのは、主将の美月とその正面にいる真由子
だけだった。

「がはあ　872!　873!・・・」鬼のような形相の美月
が叫び声を上げながら、よろよろの前蹴りを放つ。

「違う!　もつと鋭く蹴る　こうっ」真由子が鋭い前蹴りを放つ。
なんと、真由子も部員達と全く同じ内容の練習を行っている。

「うえっ　ごひゃ　ごひゃく　はっちいいい」すでに身体中の汗
がたっぷり染み込んだ空手着のあちこちが乾いて塩が噴き出して
いる。血走った目が吊り上がって形相がかわっている美月、口が開つ
き放しだがすでに口の中がからからに乾いて涎の一滴も出てこない。
「あう　うつ　　がああああ　ごひゃく　きゅううう」美月のハ
イキックの蹴りは、すでに腰くらいの高さまでしかあがらない。

「ラストお〜」真由子が気合を入れる。

「うつぎいいいい　ろっ　ろっぴゃ　ろっぴゃくう　うつじゃっ
ああああ」最後の蹴りを放つと、天を仰いで怒号を放つ美月。

「よし　おわり！」真由子が明るい声を掛ける。

全身びっしりと汗をかきＴシャツが汗で透けてスポーツブラが丸見え。肩で息をするたびに、豊かな胸が大きく上下する。このメニユーはさすがの真由子にもかなりきつい運動量だった。

「へえ」このメニューがこなせるんだ　あなたちゃんと続ければ世界に行ける可能性大よ」膝に手をあてながらゼーゼーと肩で息をする美月を見つめながら、心理療養士真由子の顔がひよいと現れて、思わず嬉しそうな声を掛ける。

聖光女子学園高等部　生徒会室

真由子が空手部への矯正活動を行なった日から数日が経った頃、生徒会室には３人の女生徒が集合していた。

「柚月さま　空手部に続いてボクシング部の葉山早苗　ＧＪ部（グレイシー柔術）の七瀬千夏ともに氷室真由美に敗れました　現在各
部は氷室の指導の元凄まじい運動量の練習を強制されております
時間的にも体力的にも部活動以外の活動は不可能な状態と思われま
す　つまり事実上鬼狂姫の戦闘部隊は壊滅状態です　特に空手部の
主将　P a C リーダの加賀美月は氷室真由美に心酔しており　鬼狂
姫を裏切る可能性が大了」生徒会室の応接セットのソファに座る
流山柚月の背後で、無表情なまま淡々と報告を行う放送部の檜山香
奈枝。

そのソファの隣の床に直接大股開きで座る佐伯沙羅。その姿はまるで巨大なティディベアのような格好だ。ただしこのティディベアは凶暴な野生の熊そのものだ。制服のスカートの下には膝丈の黒いレギンスを履いていて、そこから覗く太腿はまるで丸太のように太くて

ゴツかった。

「美月は　そーとーつええぞ　やるな氷室」その野生の熊が掠れた声で呟く

「Ｌ１世界チャンピオンは伊達じゃないってことでしょーうね」その呟きに相槌を打つ柚月。

だが柚月が心配してる問題はそれよりも、心理療養士としての真由子の実力だった。

【戦闘力については　沙羅がいれば基本問題はないですね　でも美月みたいな奴が増えるのはまずいですね　敵対勢力が校内に出来て内外に敵を抱えると沙羅だけでは手が回らなくなる可能性があるますからね　つまり氷室は倒すだけじゃなくて　偶像としても墮とす必要があるってことかしらね】

「香奈枝さん　徹底的に氷室を監視しなさい　全てのありとあらゆる情報が欲しいわ　どんな手段を使っても　あの女の秘密を暴きなさい」冷静な判断の元的確な指示を出す柚月。

「判りました　この放送部の檜山香奈枝に暴けない秘密は　校内に存在致しません」きっぱりと自信ありげに言い切る香奈枝。

【見てなさい　必ず後悔させてあげてよ　氷室真由子】香奈枝の返事を聞きながら不敵な笑いを浮かべる柚月。

「ところで雨瀨さまとの連絡はついているの？」それまで二人の会話にはあまり興味無さ気だった沙羅が柚月の発した“雨瀨”という言葉にびくつと反応する。

「はい　例のルートで報告しておりますので　近々なんらかの知らせが届くかと思えます」香奈枝が相変わらず無表情のまま報告を行う。

「わかりました　雨瀨さまからの知らせがないうちは　我々がフリーハンドで動けるってことですからね　なにも問題ありませんね」静かに呟くように言葉を漏らす柚月。おい柚月、雨瀨って誰だ？

第4話 矯正（後書き）

第4話 矯正 完了です

まあ 真由子の前には 高校生レベルの技は通用しないってことで
すね

次回 なぞの人物 雨瀨さんが登場します

今後 延々と真由子と 絡んでいく 敵役の登場です

どんな 人物なんでしょうね 次回をお楽しみね

第5話 秘密（前書き）

ついに秘密の一部ベールの幕が剥がれます

鬼狂姫の背後にいる 雨瀬 とは？

そして真由子の 隠された性癖とは？

そして5話でついに出た ファーストエロシーン です 暴かれる
作者の力量 これも3つ目の秘密だね

第5話 秘密

新宿西口MZRビルディング

新宿西口から歩いて10分程の場所にある円柱形で外壁が全て鏡張りの地上370m170階立ての超高層ビル、まさに周りある全ての高層ビルを圧倒する威容を誇っている。そのMZRビルの正面及び左右の数力所にあるビルの外見とは全く対照的な高さ4mはある巨大なシックな木造の自動ドアを抜けると、そこはMZRビル最大の呼び物である1階、4階をぶち抜いた巨大ロビーとなっている。そのロビーは天井高が30メートルはあるつかという正に空間プロデューサーの夢に出てくるような巨大空間となっていた。ロビー中央には30機程のEVのガラス張りの透明な柱が上に向かって伸びており、その柱のなかを上下する様々な色に塗り分けられたEVのゴンドラが見るものに近未来感を感じさせる。

2階、3階、4階部分のEVホールからは外壁まで伸びる十字の渡り廊下があり、渡り廊下が行き着く外壁にはビル全体一周する周り廊下が伸びている。これらの廊下からはロビー全体を見下ろすことができる。逆に一階から上を見上げると2階、3階、4階の十字の渡り廊下が、60度ずれているので中心からまるで中空に12本の腕が左右に伸びているような印象を与える。更に2階、3階、4階へと伸びる複数のエスカレータが複雑に絡まりあう様に伸びており、非常に不思議な一種独特な景観美を醸し出している。当然の様に完成直後よりこのロビーはCM撮影やドラマ撮影に頻繁に使用されて世界中で有名となっていた。現在ではお台場、六本木ヒルズ、スカイツリーなどを抑え東京観光の最大のメッカのひとつとなっていた。ロビーおよび3階までの入場は基本無料となっていることも大きな魅力だった。ただとまだまだ浅草には追いついてないみたい

だな。

そのMZRビルの最上階の最奥にある箕禰天ホールディングスの“会長室”、別名を“女王の間”。ほんのひと握りの人間だけが入りできるこの部屋の主こそが、このMZRビルのオーナーであり箕禰天ホールディングスの初代会長たる箕禰天雨瀨みねぞうじょうだった。

雨瀨が若干18歳MITの学生であった時に立ち上げた箕禰天経済研究クラブが、その天才的な資金運用理論によってヘッジファンド界で名を馳せるまでには、あまり時間は必要とらなかった。更にその2年後、飛び級を重ねて僅か20歳でMITを主席卒業すると同時に箕禰天経済研究クラブを箕禰天経済戦略所へと発展解消させると、数年で世界でも有数なヘッジファンドと成長させた。その後その豊富な資金力をもとに商社、不動産、芸能、スポーツ、医療へと手広く手を伸ばしている、まさに生きる伝説中の伝説と言われる女性だ。

そして箕禰天ホールディングスとは、雨瀨が今までに直接手がけた箕禰天経済戦略所を始め、箕禰天商会、箕禰天地所、MZRE(MineZorEnterprise)、国際L1協会(ILOA)、L1A(L1アカデミー)、箕禰天生命科学研究所(MLSRI)や、M&Aで吸収した数多あまたの企業を支配する日本でも有数の企業グループの最高意思決定組織だ。

その“女王の間”は40畳を軽く超えると云う無駄に広い空間に、窓際にこれまた通常の3倍はあるかという大きさの木製のデスクがひとつ備え付けられており、あとは6人掛けのソファ―2つに囲まれたテーブルがあるだけの、まさに殺風景で生活感など一切ない寒い部屋だ。巨大な壁にこれも巨大な横山大観の誠に見事な雪化粧された富士山の絵画がかかっているが、その絵が更に部屋の気温を下げている様だった。おいそれ本物か？ちよつと高そうだな。

窓際にどんと収まった巨大なデスクの上には、これまた40インチはあるかと云う巨大なモニタが3つとワイヤレスのクローム仕上げのマウスとキーボードが冷たい輝きを放ちながら載っている。その広大な机上にはほかに書類・資料の類は一切見当たらない。そのデスク正面の床まで伸びる窓を背にした椅子に座っている人物こそが、箕瀨天雨瀨 28歳 腰付近にまでかかるような漆黒の黒髪と抜けるような白い肌が正に対照的だ。顔はかなり細長い印象だが大きなサングラスに隠れて全体の印象はよくわからない。全体としてはかなりスレンダーな感じではあるが、その全身から発散されるオーラのような迫力は尋常ではなく、正に彼女が皆殺しの相場師、市場の死神という異名を持つ人物であることを証明していた。

“ピコ” 各企業からあがっていた書類が表示されていた40インチのモニタ上にメール着信を知らせる小さなウィンドウが浮かび上がる。それまで3枚のモニタの数字を交互に見比べていた雨瀨が、その細い指先でクローム仕上げのマウスを操作する。

SSS - L1 (Special Security Secret - Level One) の扱いであることを示す黒い瞳のマークが光るパスワードウィンドウ浮かびあがる、これは雨瀨本人以外には解錠できない事を示すマークだ。クローム仕上げのキーボードからささつと5つのパスワード (Level毎に設定されたパスワードで、L5ならひとつのパスワード、L4ならL5とL4のそれぞれ別のパスワードが必要となる仕組みになっている) を打ち込む、優に50桁を超えるパスワードを一瞬の遅滞なく打ち込む。

最後の1文字“Z”を打ち込むと同時にパスワードウィンドウが消え去り、画面にメール文章が浮かびあがる。だがそこにはなんの変哲もない文面が綴られているだけ、雨瀨が更に別のアプリを呼び出し、あるメール文章上の一節を投入すると一瞬でメールの文面が変化する。文書の中にその文書の解読用の暗号キーとロジックキー

までを組み込むという極めて高度の暗号文書（暗号文書そのものが暗号化されていない様にみえるところが更に高度だ）の内容をじつと読み込む雨瀨。

「氷室真由子？」意外な名前を聞いたような表情をする雨瀨。素早く何面ものウィンドウを呼び出しいくつもの文書や画像を確認していく。

「あなた こんなところにも首を突っ込んでくるの？ ちょっと癪に触る女ね 文部科学省の特別矯正教師なんだか知らないけど このわたくしの計画に楯突くかどうかという事になるか・・・いいでしょう あなた必ず後悔させてあげるわよ」40インチのモニター杯に写った颯爽とした笑顔の真由子の画像に向かって、微笑みを浮かべながら静かに冷たく呟く雨瀨。

聖光女子学園高等部 生徒会室

生徒会室にはあの3人の女生徒が再び集合していた。いつも同じ様に生徒会室の応接セットのソファに座る流山柚月。その背後で無表情なまま淡々と報告を行う放送部の檜山香奈枝。そしてそのソファの隣の床に直接大股開きで座り込む佐伯沙羅。

「雨瀨さまからの知らせが参りました」その一言で部屋の雰囲気が一変する。

「一言一句間違いに伝えなさい」柚月が静かに宣告する。

「はい わかっております」一息ついてゆつくりとあとを続ける香奈枝。

「氷室真由子はDXKIディッキにおいて我々への協力を拒絶し 更には1における翠の統一王者への最大のライバルです そして聖光女子学園の完全支配とそこに連動するKITU（橘）コンチエルンへの浸透計画は目下の最重要事項です これら我々の最重要目標行動にツウツツ尽く楯突く氷室真由子については この際完全排除したいと考えています まずは1で氷室を完膚なくまで叩き伏せ その後はひっ

そりとこの世の中から消えて頂くつもりです　L1は世間の注目も集めていますから　当面氷室は自由にさせて情報収集のみに徹しなさい　当然重要な情報を取得したなら直ちに報告なさい　あとは柚月さんの裁量に任せます」　一種虚ろな表情を浮かべ正に一言一句違えずに雨瀨からの指令を口伝する香奈枝。記憶術なのか一種の才能のようだ。

【完全排除？　この世の中から消えて頂く？　・・・・・・可哀想に氷室も雨瀨さまに睨まれたらお終いね　いったいどんな悲劇が待っているかしらね】雨瀨の言葉にちよつと口角を上げる柚月。

「香奈枝　準備は滞りなく進んでいるのかしら？」直ちに作業の確認に移る柚月

「はい　すでに準備は全て完了しております　あとはじっくりと観察するだけです」一転感情を滲ませた反応を見せる香奈枝。

「わかりました　実務に関わる事は全て香奈枝にお任せします　雨瀨さまのお役に立てるようにしっかりと働いてください」まさに権限委譲の鏡のような部下管理の冴えを見せる柚月。

【せいぜい　楽しんでいればいいわ　氷室　勝負はL1よ】柚月の微笑み雨瀨の微笑みと重なる。

聖光女子学園高等部　第一屋内水泳場

誰もいない50メートルプールの中央コースを唯一人真由子が、バタフライで波飛沫を上げながら突き進んでいく。遅しい上半身ががばつと水面を掻き分けていく、力強くてかなりスピードの乗った本格的なバタフライだ。

“　バツシャーン　ザザア　バツシャーン”　全力の泳ぎを続ける真由子、すでに9往復を終えて10往復目に入っている。

“　がっはっ”　鋭く大きな呼吸音が、水を叩く波音に混ざる。

10 往復の全力水泳を終えた真由子が、よたよたとプールから這い上がると、どさっとプールサイドに仰向けに倒れ込む。

“がはっ がはっ かあああ がはっ” 荒い呼吸音が続き、仰向けの競泳水着の胸が激しく隆起する。

「あう ううう ぐつくうう」 唸り声を漏らし、ふらふらしながらもなんとか立ち上がる。立ち上がると水着から水が滴り落ちて足許に水の染みが広がる。

真由子の競泳水着は、あざやかなコバルトブルー一色、ただし左胸から右腰に向けて斜めに目にも鮮やかな細い赤いラインがシャープに走っている。この競泳水着は、水着やリングコスチュームに五月蠅い真由子の一点ものの特注の水着だ。

最大の特徴の一つが最大限水の抵抗を減らすため、生地量が極端に少ない事だ。胸元が大きくV字に切れ込んでおり、胸の一部が回間見える。背中肩ひもがX字型となっており、ほとんど背中が露出している。股部は極端なハイレグ、しかも臀部に至っては、T字型となっており、尻臀しりたぶが丸見えだ。股布は非常に細く尻肉の狭間から陰部にかけて、かなり深く食い込んでいる。あまりに露出度が高く一部から大きな反感を買った事で有名となったデザインだ。

そしてもうひとつの最大の特徴は特殊生体繊維で出来た生地にある、究極の薄さと締め付け感が謳い文句の皮膚のような生地。まさに水の抵抗を低減するには理想的な生地だった。ただし欠点は濡れると透けること。薄い紙を濡らして肌に密着させたのと同じような透け具合だ。世界中の女性スイマーが使用を敬遠した原因だ。男子スイマーに至ってはあまりに露骨に存在が分かる為に使用禁止となっている。

ただし真由子にとってはこの2つの特徴こそがお気に入りだった。バスタオルを首にかけ、その両端を握りしめ肩で息をしながら濡れた水着姿のまま教官室に戻る真由子。

今日は土曜日学園はお休み。そこで真由子は、空手部、ボクシング部、グレイシー柔術 GJ部の全部員28名に呼び出しを掛け、朝から広いグラウンドを占拠して強制特訓を行っていた。全員が直接真由子の手で完膚なくまで倒されておりその命令は絶対的だった。

まずは、ご挨拶の15キロ走から始まり、100メートルダッシュ、スクワット、クランチ、腕立て、背筋、縄跳びと基礎練習を行い、その後組手などの実践練習をみっちり行った。真由子も全てのメニューを一緒に熟すため、まったく手抜きができない。最後には3部混同のガチンコの異種格闘戦を行った結果、3部28名の全員が、夕方6時までに完全にダウンしていた。そして最後にグラウンドに立っていたのは、空手部の主将加賀美月だった。自分たちのプライドまでも特訓に利用するしたたかな一面を覗かせる真由子。

「がうつ うげええええ ぜつてえ このカリはかえすぞお 氷室お 美月いい うつ うええええ」ボクシング部の葉山早苗が、月の正拳を受けた腹を抑えながらゲロを吐きながら叫ぶ。汗で濡れた背中にべっとりとグラウンドの土が張り付いている。

「くそおお 憶えていやがれえ ぜつてええ10倍返しだからなあああ マジぶつ殺してやるうう」グレイシー柔術 GJ部の七瀬千夏も仰向けのまま天に向けて吠え立てる。自分の唾が天を向く顔に降ってくる。正に天睡だ。

なおほかの部員は完全倒れ込んでおり声すらもでない。

「ありがとつ さいました」前屈みで膝に手を突き、肩で息をしながらか完全にグロッキー気味だが、空手部の主将美月だけがちゃんとした挨拶をする。

「はいっ みなさん ごくろうさま 異種格闘技戦は自分の欠点と長所を知るためには非常にいい経験になるからね これからもこう云う練習をちょいちょいやって行きましょう さあ いいことちゃあんと後片付けとお掃除してから帰るのよ わたし後で見まわりに

来るからね」真由子の「ちょいちょい」発言に何人かが目を剥く、それ以外の連中はすでに気を失っているようだ。

【これだけ絞っておけば うゝん3日は なんにも悪さなんかできっこないわ 4日後にはまたちょい絞ってやればいいわね これを2カ月も続けて その頃になにか具体的な成果を見せてあげればそれは間違いなく心に響くのよ そうよ人の精神は身体から矯正できるの……でもそれにしても鬼狂姫全然動かないわね そろそろなにか仕掛けてくると思ったけど まあ いいわ 待てば海路の日和ありつてね さてと 後はお久しぶりのお楽しみね】びっしりと汗をかき、かなり息があらいがほぼ普段通りの様子でそくさとグラウンドを立ち去る真由子。

「ば ばけもの……」その後ろ姿に向かって数人が同時に呟く。

そんな3部合同の特訓終了後のひとりでの水泳だった。

50メートルプールでのクロール30往復、バタフライ10往復を全力で泳ぎ切った真由子、さすがにそれはほとんど限界だった。あの個人更衣室に戻った真由子は、青の水着のままで木製ベンチに横たわる。ベンチの周りには、いつのまにかベンチプレスのセットが設置されている。

今日の練習は、真由子にとっては1カ月後に迫ったL1 WORK LD MAX 日本予選に向かっての最終仕上げの一環でもあったが、実は更に特別な目的もあった。

【さあ 最後の仕上げね】本来ここまでの特訓で、トレーニングとしてはもう充分だったが、これからこそが真由子の本当のお楽しみの時間だった。

一つ目の楽しみ、限界まで体力を絞り切った直後のベンチプレスで、最後の底力を試すこと。自分の実力が伸びているか、維持できているかを確認する訳だ。

静かにベンチに横になると、手に充分に滑り止めの粉を付け、ぐつと鉄棒を握り何度か握り具合を確認する。ぐぐつと三角筋と大胸筋が盛り上がる、一瞬の後上腕二頭筋三頭筋が膨れ上がる。

「うつ　くうううう　ぐうぐう　ぐんぐん　がっはあ！」腕撓骨筋にぐぐつと力を込める。

160キロのバーベルが難なく持ち上がった。差し切った両腕はびくりともしない。

“ガチャン”　バーベルを戻すと淡々と重りを増やす。

再びベンチに横になると、再度手に充分に滑り止めの粉を付け、ぐつと鉄棒を握り何度か握り具合を確認する。

「ぐうつ　ぎいううう　ぐうぐう　ごおお　がっはあ！」

175キロのバーベルがこれまた難なく持ち上がる。やはり差し切った両腕はびくりともしない。【今日はいけそうね】

“ガチャン”　バーベル戻し自分の体調を慎重に推し量り、今度は一気に重りを増やす。191キロは自己ベストを3キロ上回る重さ、そして世界記録と同じ重さだ。

そしてベンチに横になると、今まで以上に手に入念に滑り止めを付け、更に更に慎重に鉄棒を握る。

「ふつ　ふつ　ふう　ふつ　ふつ　ふう」身長に息を整えタイミングを図る真由子。

ぐいつと両腕に力が入り、ぐわつと三角筋と大胸筋が盛り上がる。通常は目立たない僧帽筋、そして上腕二頭筋、上腕三頭筋、腕撓骨筋、そして総指伸筋までがぐいぐいと盛り上がる。肩から手首まで筋肉が繋がって、まるでボンレスハムの状態。白い肌が赤く染まっていく。

「ぎいい　ぐうつ　ううう　ごはっあ　あがうう　ぐっはあ！」腕が震え、汗が滝のように流れ出す。

「かはっあ　かはっ　はう　はう　はう　ごほっ　ごほっ」息があ

がつてきている。そして気が遠くなつてきて、腕が震えだすどうやら本当の限界がきたようだ。

「うつりやああ」気合一発、腕がピンと伸びきる。ついに191キロが世界記録のバーベルが差し上がった瞬間だった。

“ガチャン”

「はあ はあ がはっ うううう はあ はあ ぐはっ ごほっ ごほっ ぜえ ぜえ」腕から力が抜けて、ぱたんとベンチの脇から垂れさがる。一度乾いて素の状態に戻っていた水着が、再び汗を吸って肌に張り付いていく、汗の油が表面に浮き出てヌメヌメと光り、生地がどんどん透けてくる。激しい息づかいと共に、上下する豊かなバストの形と、肌の色が透けて浮かび上がる。股間の布地には、汗以外の汁で縦縞の染みがうつすらと浮き上がって来ている。

【あああ 力が入らない。ほんとうに限界ね。もう動けないわ】そして2つ目のお楽しみは、体力の限界を超え、ほんとうの疲労困憊となる必要があった。

今やつと求めていた状態に到達した真由子、その秘密が、颯爽とした顔の裏に隠されていた妄想が頭の中で爆発するように広まり始める。

【ああ動けないわ このL1世界チャンプの氷室真由子が完全に無防備な状態 も も もしいま葉山早苗とボクシングの試合をしたら きつとボコボコにやられるわね あの強烈なボディブローがお腹に突き刺さるのね 腹筋にももう力が入らないから 拳が腹にめりこむわ そしてあのフックが顎を狙って飛んでくるのね 真由子の腕はもう上がらないから ああブロックできない フックが顎にクリーンヒット！ ううう奥歯が折れて吹き飛んじやう そしてついにストレートが顔の中心に叩き込まれのね あううっあの重いストレートがまともに当れば鼻が潰れるわ ああああ この筋の通

った綺麗な鼻が 潰れて豚鼻になっちゃうのお そしてとうとう顎を打ち抜くアッパー受けてついにダウン！ 世界最強のＬ１世界チャンプの真由子が 不良女子高校生ボクサーに完敗！ マットにみじめに這い蹲う最強のＬ１世界チャンプの真由子 あうううきつときつと さ 早苗は 勝ち誇って わたしのお尻を踏みつけるわああ あああああ】

その妄想について我慢ができなくなり、自然と右手指がハイレグで切れあがった、競泳水着の股布部分に這い寄る。恥汁が溢れ出て薄い水着が更に陰部に張り付き、はつきりと淫らな恥丘の形が浮き上がる。真由子の細く長い中指が、その恥丘のあわせ目を、濡れた水着の生地の上からゆっくりと上下になぞる。

「あう あう あう うううう」声が漏れだし、その自分の声が更に妄想を萌えあげる。

【次はＧＪ部（グレイシー柔術）の七瀬千夏が襲ってくるわ すでに身動きもできず 倒れ込んでいるＬ１世界チャンプの真由子の髪を鷲掴みにして無理やりに立たすと ロープに飛ばすのね 戻ってきた真由子の腕を担いで 綺麗な一本背負いが決まるう ああ背中から無様にマットに叩きつけられるのね あうもう受け身ができないいいい 背中を強打！ あああ息ができなくなるんだわ ごほごほと激しく咳き込み 背中痛みで無様にマットの上でのたうち回るのね ああ惨めな真由子 でもでもすぐさま腕をとって真由子無理矢理に立たす千夏 首を左脇に挟み込み締め上げてくるわ １度、２度と更に締め上げるのね 苦しくて息ができないいいい 首を引つ込めこうと脇に手を刺しても すかさず額に千夏の硬い膝が叩き込まれるう Ｌ１世界チャンプの真由子がなす術もなく マットに崩れ落ちちゃうの そして両脚を両脇で抱えあげ 無防備な股間を千夏の足裏で踏まれるの お いやあ許してえええ電気あんまは 駄目えええええ】

いつの間にか股間を這う指が1本増え、2本の指が競泳水着の股布の上から、恥丘のあわせ目を激しくなぞる。

「ぐぐぐ うあうあうあ はああ くつくくうう」指の数に合わせて喘ぎ声も更に大きくなっていく。

【高校生の不良女子に 電気あんま攻撃を受け続ける L1世界チャンプの真由子 あまりの痛さと惨めさに 周囲の視線も構わずに思わず許しを乞うわああ】

とうとう我慢できずに真由子の白い指が、競泳水着の股布脇から水着の中に這い入る。細い指が陰唇を直接舐り始める。腰が怪しく蠢きだし秘奥がたぎり、恥液が次々と湧き出してくる。

“グシュ グチュ グシュ グチュ” 淫肉と白い指が卑猥な音を奏でる。

「七瀬千夏さん ごめんなさい ゆるしてえ ごめんなさい 負けました かないません 真由子もう駄目です ごめんなさい 負けです負け みとめまゝす 真由子 千夏さんに負けました」頭のの中の妄想がいつのまにか、言葉になり口から洩れ出している。

【千夏は 当然許してくれないわね そして千夏が嘲りの笑いを上げながら電気あんま攻撃を繰り返してくるううう だからだかどうしても許してもらったために L1世界チャンプの真由子が 高校生の不良女子に屈辱の台詞を吐くのおおお】どんどん高まる妄想が真由子の脳を妬いていく。

“グツチャ ズツチャ ズツチャ グツチャ ズツチャ ズツチャ” 淫肉の奏でる音が激しく、早くなっている。ベンチの上で真由子の腰が激しく踊っている、自らの陰唇を舐る指はいつのまにか3本になっている。

「千夏さまあ 許してくださいいい 真由子なんでもします。どんな命令でも聞きます。」

ど ど どれ 奴隷になりますう あううう くううう ひいひい
い「自分の吐く、屈辱的言葉が、ますます真由子のマゾモードに拍
車をかけていく。

“ブジャ ジャビュ ブジャブジャ ブツチャズツチャ ジャビュ
ブジャブジャ” 陰唇を翳る3本の指のピストンがどんどん激しく
なる。指に恥汁がべつとりとついて、ヌラヌラと濡れそぼる。競泳
水着の股布がよじれて大きく脇にずれ、真っ赤に充血してぷっくり
とした陰唇が捲れ上がり、膣内の肉色の肉襞にくひだがはつきりと露出され
る。

膣腔の奥底にまで挿し込まれ、激しくピストンして自の秘奥を責
め立てる3本の指がはつきりと見える。真由子の腰がぐんぐんと
上下にうねる。

「舐めますう 舐めますう 千夏さまの足を舐めます」妄想の中で
は、千夏の汚れた足指が真由子の口に突っ込まれている。そして更
に妄想は進む、千夏の逞しい大きな尻が、真由子の顔を押し潰して
いく光景が脳内にはつきりと写しだされる。真由子のしっかり瞑つ
た瞼がピクピクと震える。

「はいっ舐めますう 舐めますう 舐めさせて下さい。千夏さま
の尻穴 尻穴舐めたいいいのおお ぴいひいひい きゅううう あう
あうっ うがああああ ぐあぐあぐあ」

“ズツチャズツチャ ビュジュ ブツチャズツチャ ビュジャ ブ
ツチャズツチャ” 激しくピストンする3本の指が肉襞にくひだの中で鍵型に
曲がり、淫肉を擦りあげる。膣口から恥汁が激しく飛び散りベンチ
に点々と濡れ染みを付けていく。更に競泳水着のよじれた股布やそ
の付近の布地に、膣口から溢れだす恥液の染みがどんどん広がって
行く。真由子の腰が上下だけでなく、左右にも激しく踊り出し、そ
の動きに攀られベンチの脚ががんがんと床を打つ音を放つ。

「壊してえ 壊していいのお L1世界チャンプの真由子のまんこ
お 壊してええええ お願いします 不良女子高生様にまんこ壊さ
れたいのおおお」マゾモード全開の叫び声を放つと、3本指を細
く窄め、ぐぐつと膣口の奥底の更なる秘奥にまで突き入れる真由子。
その途端、腰が限界まで持ち上がり、まるでベンチの上でブリッジ
するような形となる。

「あがぎやあああ うぎやあああ ぐぎやあああ こわれりゅー子
宮に入ったあああ じゃぎゅううう い いっぐぐぐ ぐばっあ
いつ 子宮でえ いぐうくうううう」その一瞬に一体どんな妄
想が真由子の頭の中で展開されているのか、想像もつかない。

そんなマゾモード全開の妄想オナニーに耽りきる真由子の痴態を
覗く電子の小さな目と耳。それは部屋の隅にあるスチールロッカー
のドアの上部、刻まれた小さな空気口。その小さな穴に仕込まれた、
豆粒程の小さな精密レンズと集音マイク、そこに映った画像と音声
は、ひっそりと無線とあるパソコンに送信されていた。

本来なら毎回部屋を使用する度に、必ず盗聴機器のチェックを行
うことが、内規で決まっている。しかし更衣室のドアに教育環境矯
正特別査問委員会の専門家が、電子式の2重錠を設置したことで安
心しきった真由子は、その大雑把な性格そのままに、そのチェック
を怠っていた。

「いっぐぐぐ ぐばっあ いっ 子宮でえ いぐうくうううう」
3本指を細く窄めぐぐつと自らの膣口突き刺し、真由子が腰を振り
上げ、ベンチの上でブリッジのような格好を取っている映像が鮮明
に写し出されている。

「なんじゃ こりゃ」パソコン上の映像に見入る沙羅が、汚いもの
をみる目つきで叫び声をあげる。

「体育教官室、氷室専用の更衣室に仕込んだピンカメラが捉えたも

のです どうやら更衣室の鍵を電子ロックの2重錠に交換したようですが あんなものは まあ子供騙しでした」檜山香奈枝の口角がニヤリと吊り上がる。

「つまり特別矯正教師のＬ１世界チャンプ氷室真由子は ドマゾの変態女ってことね 香奈枝よくやったわね」冷静に映像を見つめながら香奈枝を褒める事を忘れない柚月。 みごとだな、上司の鏡だぞ柚月。

「おりゃあ あんな変態とはタイマン張りたくねえなあ」「いやゝな表情を浮かべる沙羅。

「大丈夫ですわ 沙羅さんが闘うまでもないと思いますよ たぶんＬ１で決着が着くと思いますよ」沙羅の言葉に即座に返事を返す柚月。

【最高の弱点を掴んだわね これは雨瀬様への最高のプレゼントなるわね】柚月が楽しげに微笑む。

そんな３人を他所にパソコンの画面上では、真由子が更なる痴態を晒し続けていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5197z/>

氷室 真由子の悲劇 改

2011年12月21日19時47分発行